



2004年4月4日須崎湾湾奥部で撮影。

川と海を行ったり来たりする回遊を通し回遊と呼ばれます。モクズガニは通し回遊をする珍しいカニです。

モクズガニの生活史と詳しい生態は最近、九州大学の小林哲博士により明らかにされました。モクズガニの産卵期は9月から翌年の

6月までとかなり長期にわたります。しかし、この中には秋から冬にかけて産卵するグループと、冬から初夏にかけて産卵するグループがあります。上の写真個体は2004年4月に須崎湾で採集しました。この季節に抱卵している個体は浦戸湾でも見ることができます。明らかに、後者のタイプに属します。もちろん、前者のタイプもいます。

右の個体は殻幅1 cmに満たないモクズカニです。これが遡上し、2～3年かけ、18～20回の脱皮をくり返して親になります。産卵するのは1シーズンだけで、1個体が3回産卵するとされています。産卵後は死亡します。全国的に資源の不足が指摘されています。人工増殖も一つの手段ですが何より、自然環境の保全と水質の監視・向上の意識が先決でしょう。



2004年7月19日園分川で採集された個体。

2004年12月27日発行 発行者：町田吉彦（理学博士，高知大学理学部教授，
四国自然史科学研究センターセンター長）

本書の内容の無断複製を禁止します。複製ならびに内容についての問い合わせはFAX 088-844-8310（町田研究室直通）をお願いします。